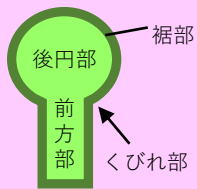


## 国史跡「安徳大塚古墳」令和7年度の調査成果

54年ぶりに発掘調査が行われている国史跡「安徳大塚古墳」について、令和7年度の調査成果をお伝えします。

### 調査の概要と成果

令和7年度は安徳大塚古墳がつけられた当時の大きさや形を知ることなどを主な目的として測量調査や発掘調査を行いました。発掘調査では墳丘の3か所（A・B・C）について、下の図に赤で示した範囲（計18か所）を部分的に掘り下げ、地下の状況を確認しました。



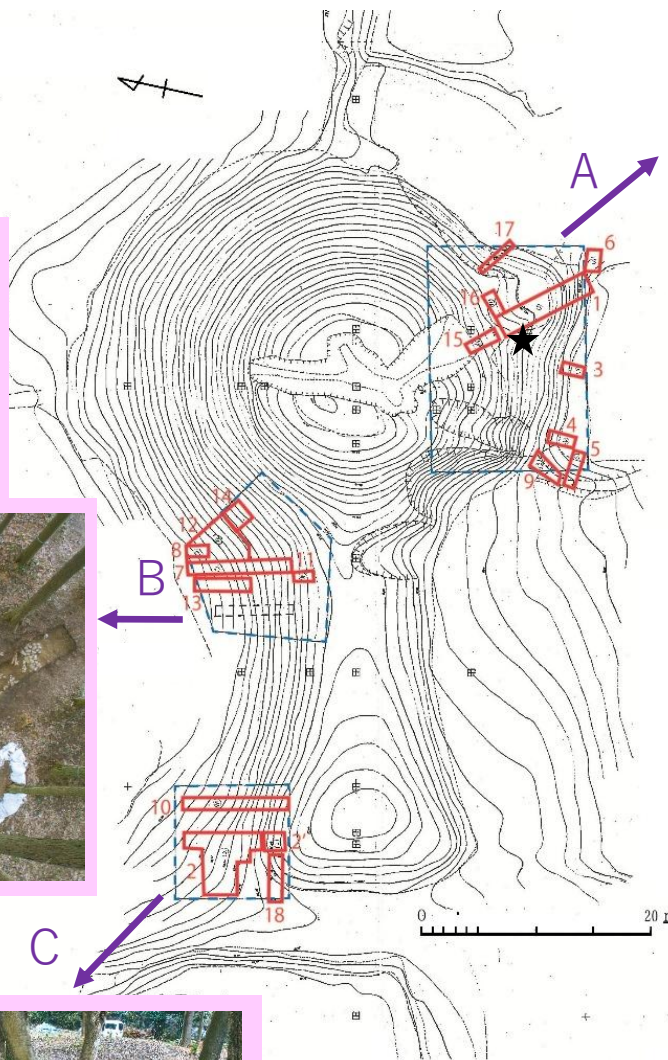
B地点では、古墳のくびれ部に葺石が大量に溜まった状態で見つかりました。（ここで見つかった埴輪については後述します。）



A地点では、後円部の裾部が後世に削られていることが明らかになりました。つけられた当時の古墳の大きさは今よりも3mほど大きく、全長67m前後となる可能性が出てきました。



★地点の調査で、主体部が盗掘された痕跡である白色粘土や礫の堆積した層が見つかりました。



C地点では古墳の墳裾を探す調査を行いました。古墳の北半分（上図の左半分）は丘陵の北斜面を利用して大きく見せるためか、はっきりとした墳裾は今のところ見つかりません。また、そもそも古墳が左右対称ではない可能性も出てきました。

## 出土した埴輪

今回の調査では円筒埴輪と壺形埴輪の破片が古墳のくびれ部を中心に多く出土しました。

円筒埴輪は当時の場所に埋まったままの状態  
で出土したものがあり、埴輪をどのように並べていたのかがわかる貴重な発見となりました。



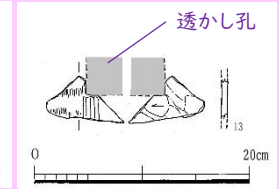
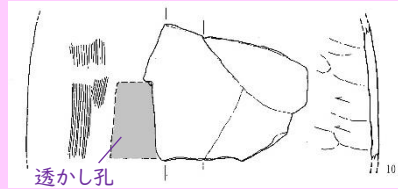
また、これらの円筒埴輪は三角形や四角形と思われる直線的な透かし孔や、埴輪にめぐらされた突帯の形状などから、古墳の築造時期と合致する古墳時代前期（約1600年前）の特徴に当てはまります。

壺形埴輪は丹塗りや二重口縁などさまざまな種類のもので出土しましたが、残りの良い資料は少なく今後の調査が期待されます。

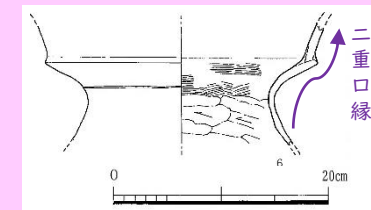
今回見つかった埴輪は、北部九州の古墳時代前期後半の数少ない貴重な資料です。

また、円筒埴輪は近隣の卯内尺古墳や老司古墳（ともに福岡市南区）を含めた福岡平野における埴輪の出現過程を検証する上で重要な資料です。

円筒埴輪



壺形埴輪



## 現地説明会のお知らせ

令和8年度も引き続き発掘調査を行います。

今年度は2回の現地説明会の開催を予定しています。

1回目はこのニュースレターの内容である、令和7年度の調査成果を公開します。

2回目は年度後半に行う予定です（日時等は現在のところ未定です）。

と き：2026年**5月30日**(土)14時～16時

ところ：大塚公園(安徳大塚古墳 現地)

※現地には駐車場がありません。古墳までの行き方などの詳細はホームページをご確認ください。



ニュースレターの  
バックナンバーも  
こちらから！

那珂川市文化財サイト

編集・発行  
お問い合わせ先

那珂川市教育委員会文化財課保護担当  
〒811-1241

福岡県那珂川市後野1-5-1（那珂川市中央公民館内）

Tel.092-952-2092

※お問い合わせは平日月曜から金曜までの8時30分から17時まで